

埼玉大会

④ さいたまの国 ⑤ いまこそ助けあい ⑥ たまき ⑦ まなびを学ぶ

開会式

【開会宣言】 飯島由美子 実行委員長

「新型コロナウイルス感染症の影響により、実際に集まって討議することはできませんが、埼玉の地から発した想いが全国へ届き、各地での事務職員の取組が一步でも進むことを願い、実行委員一同、精一杯務めさせていただきます。」と宣言しました。



【全事研会長あいさつ】 阿部貴子 全事研会長

「第9次研究中期計画の3年次として『地域協働』を戦略領域とし、学校の在り方や役割、そのための学校事務の機能、事務職員の役割について追究します。『つかさどる』となって4年以上が経過し、より主体的・積極的に学校運営に参画し、より良い学校づくりに貢献する学校事務の推進に向けた資質能力の向上と実践の積み重ねが重要となっています。現状分析と課題解決策の実行により私たちの職務をより確かなものとしていく取組が必要です。」とあいさつしました。



【来賓祝辞】

大野元裕 埼玉県知事

高田直芳 埼玉県教育委員会教育長

清水勇人 さいたま市長

細田眞由美 さいたま市教育委員会教育長



「新型コロナウイルス感染症拡大により学校生活や日常の変化などで先行き不透明な時代のなか、主体的に考え、行動できる力や多様な人々と協調できる力をもった人材を育てていくためには、事務職員の専門性やマネジメント能力が必要不可欠となります。この大会を機会に、各都道府県の実践状況の共有や意見交換を通じ、学校事務がさらに充実していくことを期待しています。」と大野埼玉県知事から御祝辞をいただきました。

全体研究会 I



第9次研究中期計画の3年次となる埼玉大会では、「子どもの未来を創造する地域協働」を大会テーマに、「第Ⅰ節 新たな地域協働」、「第Ⅱ節 子どもの未来を創造する地域協働」、「第Ⅲ節 持続可能な地域協働を推進する事務機能」、「第Ⅳ節 学校づくりと地域づくりを担う事務職員・共同学校事務室」、「第Ⅴ節 学びの場を地域とともにつくる事務職員の姿」が提案されました。

<提案1 第Ⅰ節 新たな地域協働>

変化の激しい社会を生き抜くためには、子どもの頃から自ら課題を見つけ、新たなことに挑戦し、生涯にわたり学び続ける基盤を身につける必要があります。そのためには学校だけではなく、地域に存在する多様な主体とのかかわりが重要となります。全事研ではこれまでも、中学校区を基盤とする地域学校経営組織を提案してきました。地域協働の現状を踏まえ、地域協働の推進を教育行政職員である事務職員・共同学校事務室が担うことで、新たな地域協働を確立していくことが重要であると提案されました。



<提案2 第Ⅱ節 子どもの未来を創造する地域協働 ・ 第Ⅲ節 持続可能な地域協働を推進する事務機能>

地域とともにある学校づくりのために、自己実現の要素や共通の価値を創造する概念を戦略的に取り入れた地域協働が有効です。各主体が目標を共有し、お互いの強みを生かし合いながら協働することが、子どもの豊かな学びとより良い社会の構築につながります。持続可能な地域協働を推進するには、情報を的確に把握するIRの機能や経営資源の活用により当事者をコーディネートする機能が必要であり、その一例としてカリキュラム戦略室を提案されました。



<提案3 第Ⅳ節 学校づくりと地域づくりを担う事務職員・共同学校事務室>

地域協働のなかで、事務職員・共同学校事務室が多様な主体とともに政策を形成することで、財務などの専門性を発揮したり、広報やIRの役割を担うことができたりします。また、事務職員・共同学校事務室が多様な主体とともに地域協働の拠点をつくったり、戦略的な人材マネジメントを行ったりするという提案がされました。



<提案4 第Ⅴ節 学びの場を地域とともにつくる事務職員の姿>

事務職員の資質・能力として、つなげる力と結び付ける力があります。その強みを生かして地域協働の体制を構築する役割を担うことができます。また、事務職員の力量形成の場として共同学校事務室が有効であり、キャリアに応じた資質・能力の明確化が重要です。教育行政職員としての専門性を発揮して、子どもの未来を創造する地域協働を担う事務職員の姿が提案されました。



助言者の加藤崇英氏からは、学校と地域の現状と、学校運営協議会と地域学校協働活動の制度を踏まえ「今自分の学校が地域とどのような関係にあるのか着目していただき、学校と地域の関係が再編されているなかでつなぐ役割を事務職員にもかかわっていただきたい。」とお話いただきました。その上で、「個人の自己実現や、CSVの概念を取り入れるには、協働の視点が重要になる。その中でポイントとなるのが、ゴール・イメージを共有し、向かう方向、ベクトルを確認する。事務職員が地域協働の要となるには、そのためのストーリー・イメージを共有したり、作り出したりするプロセスにおいて協働していくことが必要である。」「提案2のなかにコーディネーションのことがあったが、あわせてファシリテーションの視点をもつことが大切」「共同学校事務室や共同実施は創造の場所と捉え、事務職員が地域協働の要となる」といった御助言がありました。



同じく助言者の近藤章宏氏からは、9年前に新座市で学校運営協議会が導入された際の御経験や、現在の勤務校での取組を取り上げ、地域協働について御助言いただきました。また、「事務職員・共同学校事務室に期待することとして、情報の収集・整理・運用・更新、職員への地域人材の活用の周知（コーディネート役）、渉外担当、財務担当として様々な資源を活用した事業支援・財源、学校運営協議会への事務局職員となって学校と地域が円滑に地域協働するための一翼を担っていただきたい。」と御助言がありました。



また全体について、助言者の加藤崇英氏からは、「ひとつひとつの提案の内容が重く、重要です。一気に読み進めるのではなく、かみ砕いて自分のものとしていただきたい。」と御助言をいただきました。そして最後に「普段の小さな事務も大きな全体（地域活性化・教育行政全体）につながっている。」「事務職員が管理職、教員、子ども、保護者とかかわることで学校を変えている実態がある。日々の実績を振り返り、このことの重要性を認識して欲しい。」「実績と貢献、成長を実感できる方々との出会いを大切にしていきたい。」と事務職員への期待をお話いただきました。

さいたまめちしき 航空発祥の地 《埼玉の発祥②》

明治44年(1911年)、徳川好敏大尉の操縦する「アンリー・ファルマン機」は、我が国で初めて公式飛行場での飛行に成功しました。当日は大勢の見物人がやって来て、食べ物を販売する屋台ができるほどのお祭り騒ぎだったそうです。その舞台となったのは所沢飛行場。現在の所沢航空記念公園です。